

令和3年度高齢期の幸福度に関する報告書
新規調査編

目次

1. 本調査の目的.....	2
2. 調査の方法.....	2
2-1. 調査項目と手続き.....	2
2-2. 調査対象者および参加者.....	3
2-3. 倫理的配慮.....	3
3. 新規調査の参加状況および参加者の属性.....	4
4. 新規調査における各変数の分布および記述統計（男女別、年齢群別）.....	6
4-1. 主観的健康感.....	6
4-2. 幸福感（WH05-J 得点）.....	7
4-3. 老年的超越.....	9
4-4. 要介護リスク（基本チェックリスト）.....	10
4-5. 日中の過ごし方.....	12
4-6. 経済状況.....	15
5. 新規調査における幸福感に関連する要因.....	16
6. 第1期調査と第2期調査の比較.....	17
6-1. 分析対象者の人数、属性.....	17
6-2. 主要変数における調査期による平均値の相違について.....	18
6-3. 他地域（SONIC 研究）における地域在住高齢者調査との比較.....	19
7. 新規調査のまとめ.....	20
8. 資料：令和3年度追跡調査および新規調査における地域包括センターに関する質問、IT 機器に関する質問、ボランティア活動に関する質問の集計表.....	21
8-1. 調査参加者の性別、年齢別の人数.....	21
8-2. 地域包括支援センターの認知度について.....	21
8-3. IT 機器に関する質問.....	22
8-4. ボランティア活動に関する質問.....	23
9. 資料：令和3年度新規調査調査票.....	28

1. 本調査の目的

『高齢期の幸福度調査』は平成 28 年度から実施されており、市内高齢者を生物学的な面と心理的な面から調査を行い、亀岡市における有効な地域包括ケアシステムの下、幸せで健康的な高齢期を創設する為のエビデンスデータの蓄積を行うことを大きな目的としている。

これまで、亀岡市在住で、平成 28 年に 70 歳、80 歳、90 歳であった自立高齢者 2,986 人に対して、平成 28 年から 30 年までの訪問調査を実施し 1,382 人の参加を得た。そして、その 3 年後にこれらの調査参加者に対して追跡調査を実施し 950 人の調査を完了した。これらの調査（以下、第 1 期調査と呼ぶ）については、「令和 3 年度高齢期の幸福度に関する報告書追跡調査編」において報告を行った。

こちらの報告書では、令和元（2019）年度に新規に抽出された 70 歳以上の高齢者に対して 3 年間（令和元年度から令和 3 年度）にわたって実施した初回調査（以下、第 2 期調査と呼ぶ）の報告を行う。第 1 期調査と同様に令和元年から 3 年間にわたる新規調査を実施し、亀岡市高齢者の幸福感、要介護リスク、心理状態（老年的超越）などに関する調査を実施した。本調査は、前回の平成 28 年度に抽出された対象者と、調査時の年齢は同じであるが、世代的には 3 歳若い集団の調査となる。

第 1 期調査と同じ方法で同じ年齢の対象者に調査を行い、データを収集し両者を比較することで、第 1 期調査で示された傾向が安定的なものであるのか、または 3 年間の時代の変化による相違が幸福感や要介護リスクや心理状態にどのように影響するかを明らかにする。

2. 調査の方法

2-1. 調査項目と手続き

①主観的健康感：1 項目

自分の健康状態がよいか悪いかの自己評価を「とても健康だ」から「健康でない」までの 4 段階で評定するものである。得点が高いほど、健康感がよいことを示している。

②精神的健康感（幸福感）WH05-J：5 項目

本調査では、精神的健康の測定に、日本語版 WHO-5 精神健康状態表（以下、WH05-J）を用いた。この質問票は 5 項目からなる質問票であり、各質問について 6 段階で評定を行うものである。得点の範囲は 0 点から 25 点であり、得点が高いほど精神的健康がよい。13 点未満であるとうつ病の罹患リスクが高いことが報告されている（Awata, et al, 2007）。

③厚生労働省 基本チェックリスト（KCL）：20 項目

ここでは基本チェックリスト 25 項目のうち、「暮らしぶり 1」（5 項目：手段的日常生活動作が可能であるか）、「運動器関係」（5 項目：運動器の機能について）、「栄養」（2 項目：低影響状態かどうか）、口腔機能（3 項目：口腔機能に問題がないか）、「暮らしぶり 2」（5 項目：閉じこもり、認知症に関する問題がないか）を用いた。得点が高いほど、要介護リスクが高いことを示している。

④日本版老年的超越質問紙改訂版の短縮版：12 項目

高齢者の心理発達の一つである老年的超越を測定する日本版老年的超越質問紙改訂版（増井ら 2013）を、更に簡便に実施するために 12 項目に短縮したもの。各項目は「あてはまる」から「ややあてはまらない」の 4 段階で評定される。この短縮版では下位因子はなく、12 項目の合計得点が高いほど、老年的超越が高いことを示す。

⑤日中の過ごし方：日中の過ごし方について、(1)収入のある仕事、(2)ボランティア、(3)田畑の仕事、(4)家事、(5)家族の介護、(6)孫の世話、(7)運動、(8)学習・教養、(9)その他について、それぞれ実施の有無をうかがった（複数の質問で「はい」を許す形）。また、(7)、(8)、(9)については具体的に何を行っているかを尋ね、コーディングを行った。

⑥経済的状況：現在の経済的状況について、大変苦しい、やや苦しい、ふつう、ややゆとりがある、大変ゆとりがある、の5段階で評定した。

⑦地域包括支援センターの利用や認知：地域包括支援センターの利用や認知について、利用したことがある、名前や何をしているのかも知っている、名前だけ知っている、知らなかった、の5段階で評定した。

⑧情報端末の所有について：情報端末について、(1)スマートフォン、(2)タブレット型端末、(3)パソコンについて、それぞれ所有の有無を尋ねた。また、どれも持っていない場合は、(1)必要だと思わないため、(2)使い方がわからないため、(3)お金がかかるため、(4)購入方法がわからないため、(5)その他の5項目で理由を確認し、(5)については、具体的な理由を確認した。

⑨ボランティア活動に対する関心と参加経験：ボランティア活動に対する関心及び参加経験について、直近1年間に(1)ボランティア活動に参加したことがある、(2)ボランティア活動に興味をもったことはあるが、参加したことはない、(3)ボランティア活動に興味をもったことはない、(4)その他の4段階で評定した。また、(4)については具体的な状態を尋ね、(1)については具体的にどのような活動に参加したかを尋ねた。

⑩ボランティア活動参加意欲：今後のボランティア活動参加への興味について、(1)現在参加しているボランティア活動をこれからも続けていきたい、(2)ボランティア活動に興味がありこれから参加してみたい、(3)ボランティア活動に興味はあるが今のところは参加するつもりはない、(4)これからボランティア活動に参加するつもりはまったくない、(5)その他の5段階で評定した。また、(5)については具体的な内容を確認し、(2)、(3)については、ボランティア活動に参加しやすくなると思う条件について、(1)一緒にボランティア活動に参加する仲間がいること、(2)ボランティア活動についての情報が簡単に手に入ること、(3)ボランティア活動に参加できる場所が増えること、(4)ボランティア活動の種類が増えること、(5)ボランティア活動の参加者に特典（買い物などに使えるポイントなど）があることの6つから2つまでの選択を分類した。また、(6)に関しては具体的な内容を確認した。

⑪調査手続きおよび分析方法

令和元年度調査は、対象者全戸に対して訪問を行い、調査員による聞き取り調査を実施した。令和2年度、令和3年度については新型コロナウイルス感染症の流行のため、訪問聞き取り調査は実施できず、郵送調査を実施し、参加者は自記式で回答を行った。

収集されたデータは、IBM SPSS Statistics バージョン 25 を用いて統計的分析（記述統計値の算出、t 検定、分散分析、相関係数、重回帰分析など）を行った。

2-2. 調査対象者および参加者

亀岡市在住で、各調査年度に、70歳（以下、70歳群）、80歳（以下、80歳群）、90歳（以下、90歳群）であった者から、死亡、転出、介護認定または介護保険申請中の人を除き、2,105人の抽出を行い、令和元年度から令和3年度に調査を実施した。また、地域包括支援センター把握ケースの中で、専門的支援が不要と判断された者17人が令和元年度に調査に参加した。合わせて2,122人の対象者のうち、最終的に1,619人が調査に参加し、調査参加率は76.3%となった。

2-3. 倫理的配慮

亀岡市個人情報保護条例に基づいて実施された。訪問時に対象者に調査の趣旨を説明し、了承を得た時点で同意とみなした。また、郵送調査では調査票の返送をもって同意とみなした。

3. 新規調査の参加状況および参加者の属性

表3-1-1は、初回調査の年度別に調査対象者の参加状況を示したものである。令和元年度から令和3年度まで合計で1,619人が調査に参加し、参加率は76.3%と高率であった。

表3-1-1. 初回調査年度別（R1～R3年度）の対象者の参加状況

初回調査 年度		新規調査への参加		合計
		不参加	参加	
R1年	人数	58	204	262
	割合	22.1%	77.9%	100.0%
R2年	人数	216	714	930
	割合	23.2%	76.8%	100.0%
R3年	人数	229	701	930
	割合	24.6%	75.4%	100.0%
合計	度数	503	1619	2122
	割合	23.7%	76.3%	100.0%

表3-1-2. 年齢別・性別の新規調査参加者数

性別		初回調査時の年齢			合計
		70歳	80歳	90歳	
男性	人数	240	313	226	779
	割合	30.8%	40.2%	29.0%	100.0%
女性	人数	271	319	250	840
	割合	32.3%	38.0%	29.8%	100.0%
合計	度数	511	632	476	1619
	割合	31.6%	39.0%	29.4%	100.0%

表3-1-2は、調査参加者1,619人の年齢および性別の内訳を示したものである。男性、女性とも、年齢別の比率は、70歳約30%、80歳約40%、90歳約30%であり、男女や年齢による参加比率に有意差はなかった。

次ページ、表3-1-3に地区別・男女別の参加者数を示した。調査地区では、男女の割合の偏りは見られなかった。表3-1-4は、地区別・年齢群別の参加者数を示した。分析の結果、篠地区では他地区と比較して90歳群の割合（21.3%）が少なく、川東地区、西部地区では90歳群の割合（37.6%、46.2%）が多かった。また篠地区の70歳の割合（38.5%）は他地区よりも多かった。

表3-1-3. 地区別・男女別の参加者数

地区		性別		合計
		男性	女性	
亀岡	人数	155	173	328
	割合	47.3%	52.7%	100.0%
川東	人数	56	85	141
	割合	39.7%	60.3%	100.0%
西部	人数	77	66	143
	割合	53.8%	46.2%	100.0%
中部	人数	146	163	309
	割合	47.2%	52.8%	100.0%
南部	人数	65	68	133
	割合	48.9%	51.1%	100.0%
篠	人数	160	178	338
	割合	47.3%	52.7%	100.0%
つつじヶ丘	人数	120	107	227
	割合	52.9%	47.1%	100.0%
合計	度数	779	840	1619
	割合	48.1%	51.9%	100.0%

表3-1-4. 地区別・年齢群別の参加者数

地区		初回調査時の年齢			合計
		70歳	80歳	90歳	
亀岡	人数	100	132	96	328
	割合	30.5%	40.2%	29.3%	100.0%
川東	人数	41	47	53	141
	割合	29.1%	33.3%	37.6%	100.0%
西部	人数	38	39	66	143
	割合	26.6%	27.3%	46.2%	100.0%
中部	人数	92	135	82	309
	割合	29.8%	43.7%	26.5%	100.0%
南部	人数	30	54	49	133
	割合	22.6%	40.6%	36.8%	100.0%
篠	人数	130	136	72	338
	割合	38.5%	40.2%	21.3%	100.0%
つつじヶ丘	人数	80	89	58	227
	割合	35.2%	39.2%	25.6%	100.0%
合計	度数	511	632	476	1619
	割合	31.6%	39.0%	29.4%	100.0%

4. 新規調査における各変数の分布および記述統計（男女別、年齢群別）

次に、R1年からR3年に新規調査に参加した1,619人の主たる指標の基本的特性について検討を行った。各変数の分布と性別と年齢群（70歳群、80歳群、90歳群）を独立変数とする各指標の平均値の差を検討した。

4-1. 主観的健康感

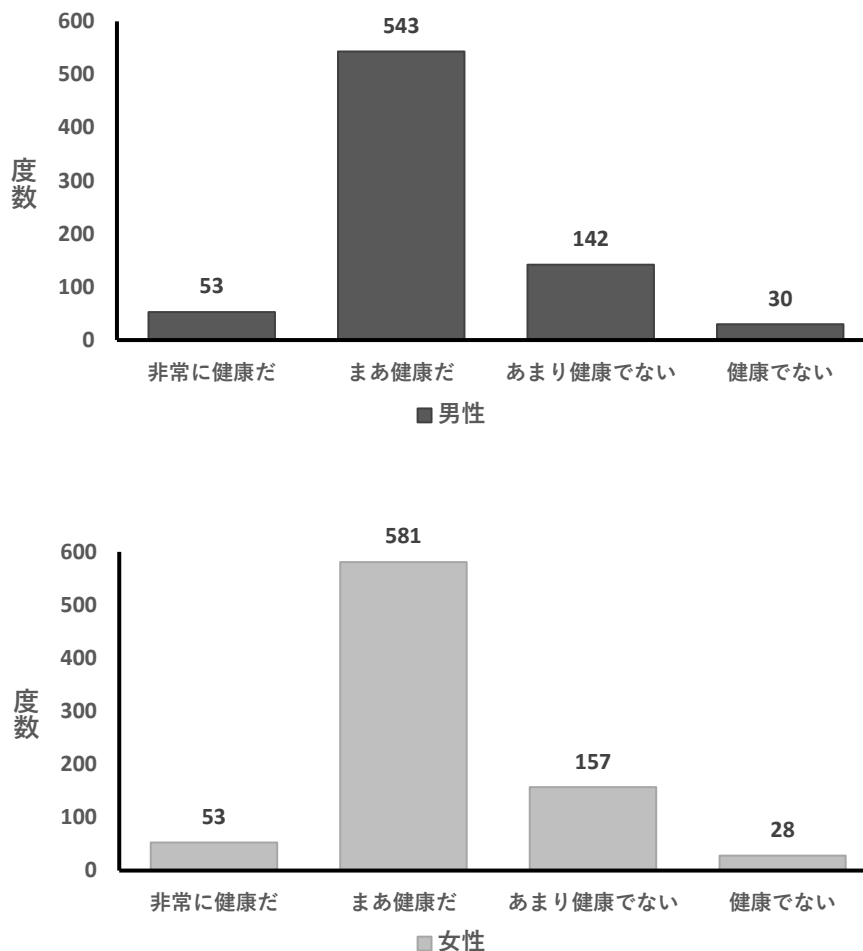


図4-1-1. 主観的健康感の性別のヒストグラム（上段：男性、下段：女性）

図4-1-1に、主観的健康感の得点分布を性別に示した。主観的健康感の平均値は点数が高い程、主観的な健康感が悪いことを示している。「非常に健康だ」、「まあまあ健康」と回答した割合は男性で77.6%、女性で77.4%と共に75%を超えており、新規調査参加者においても健康感が高いことが示された。

次ページの図4-1-2は、性別と年齢の6群で主観的健康感を比較したものである。70歳群は80歳群、90歳群よりも主観的健康感が低く、健康感がよいことが伺える。性別×年齢群別の分散分析の結果、70歳群は80歳群よりも有意に主観的健康感がよいことが示された ($F(2, 1581) = 5.283$ $p < .01$)。有意な男女差はなかった。

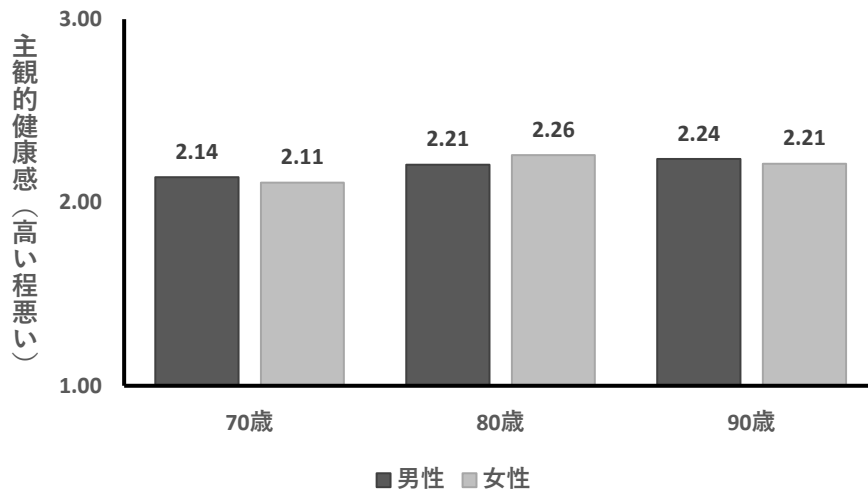


図4-1-2. 性別×年齢群別の主観的健康感の平均値

4-2. 幸福感 (WH05-J 得点)

幸福感の指標である WH05-J 得点の性別の分布を、図4-2-1 に示した。また、図4-2-2 に性別×年齢群別の WH05-J の平均値を示した。

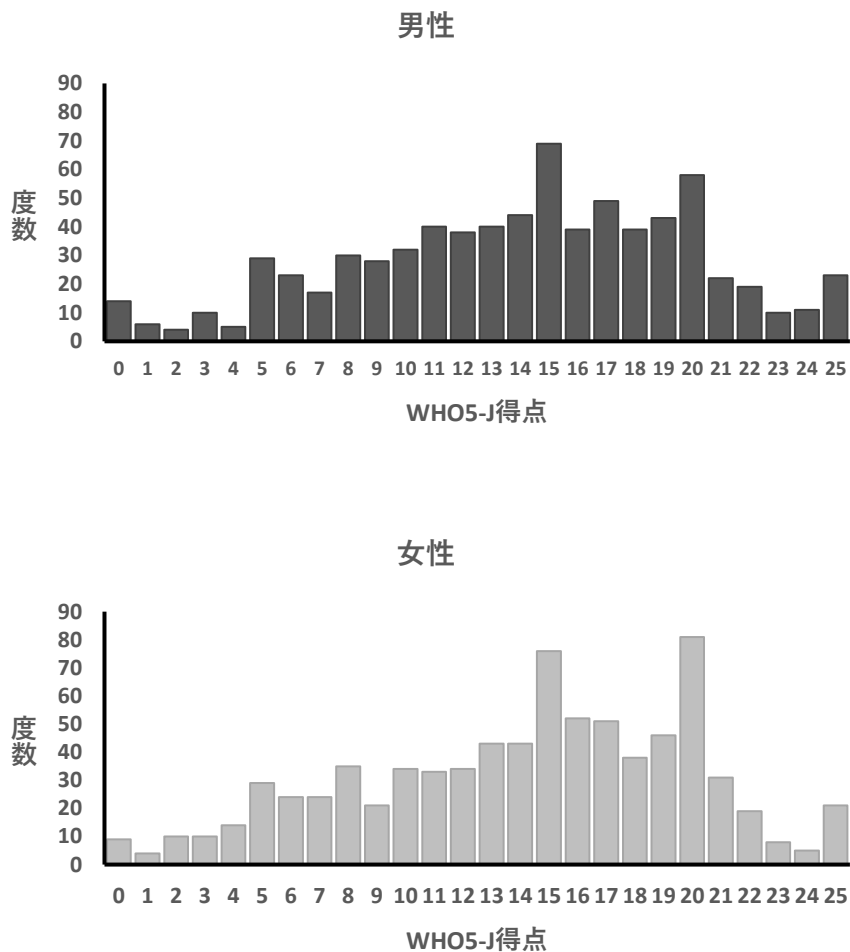


図4-2-1. 幸福感 (WH0-5 得点) の性別のヒストグラム (上段: 男性、下段: 女性)

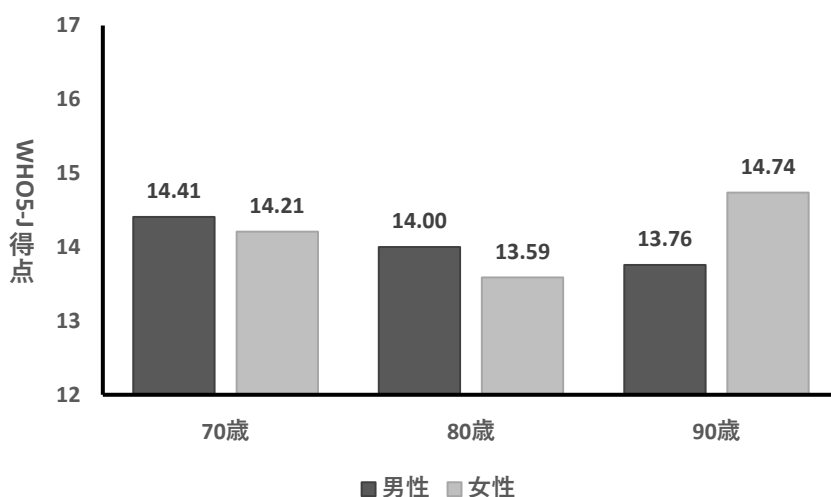


図4-2-2. 性別・年齢群別のWH05-Jの平均値

図4-2-1の幸福感（WH05-J）の得点分布からは、男女とも15点付近に一つの山があるが、20点付近にも山があり、幸福感が中程度の人が多いが、高い人もある程度いることも示された。図4-2-2の性別×年齢群別の平均値について分散分析により検討したところ、性別、年齢群によってWH05-Jの平均値には有意な差はないことが示された。

表4-2-3. 各年齢×性別による6群における精神的健康リスクあり（13点未満）の割合

		男性			女性		
		リスクなし (13点以上)	リスクあり (13点未満)	合計	リスクなし (13点以上)	リスクあり (13点未満)	合計
70歳群	人数	153	84	237	176	92	268
	割合	64.6%	35.4%	100.0%	65.7%	34.3%	100.0%
80歳群	人数	183	109	292	183	117	300
	割合	62.7%	37.3%	100.0%	61.0%	39.0%	100.0%
90歳群	人数	130	83	213	155	72	227
	割合	61.0%	39.0%	100.0%	68.3%	31.7%	100.0%
合計	人数	466	276	742	514	281	795
	割合	62.8%	37.2%	100.0%	64.7%	35.3%	100.0%

WH05-J得点は13点未満の場合、精神的健康のリスクありとしてうつ病の発症率が高くなることが知られている。そこで、表4-2-1に性別×年齢群別の6群において、それぞれの群におけるリスクあり者とリスクなし者の割合を示した。どの男女別の年齢群においても、「うつリスクあり」の人の割合は概ね35%前後であった。χ²乗検定の結果、性別×年齢の6群間に有意差はなかった。

4-3. 老年的超越

日本版老年的超越質問紙短縮版 12 項目の合計得点の分布を図 4-3-1 に、図 4-3-2 に性別×年齢群別の老年的超越の平均値を示した。分散分析の結果、男性よりも女性が有意に老年的超越の得点が高く ($F(1, 1349)=16.73$ $p<.001$)、年齢が高い程、得点が高いことが示された ($F(2, 1349)=31.05$ $p<.001$)。

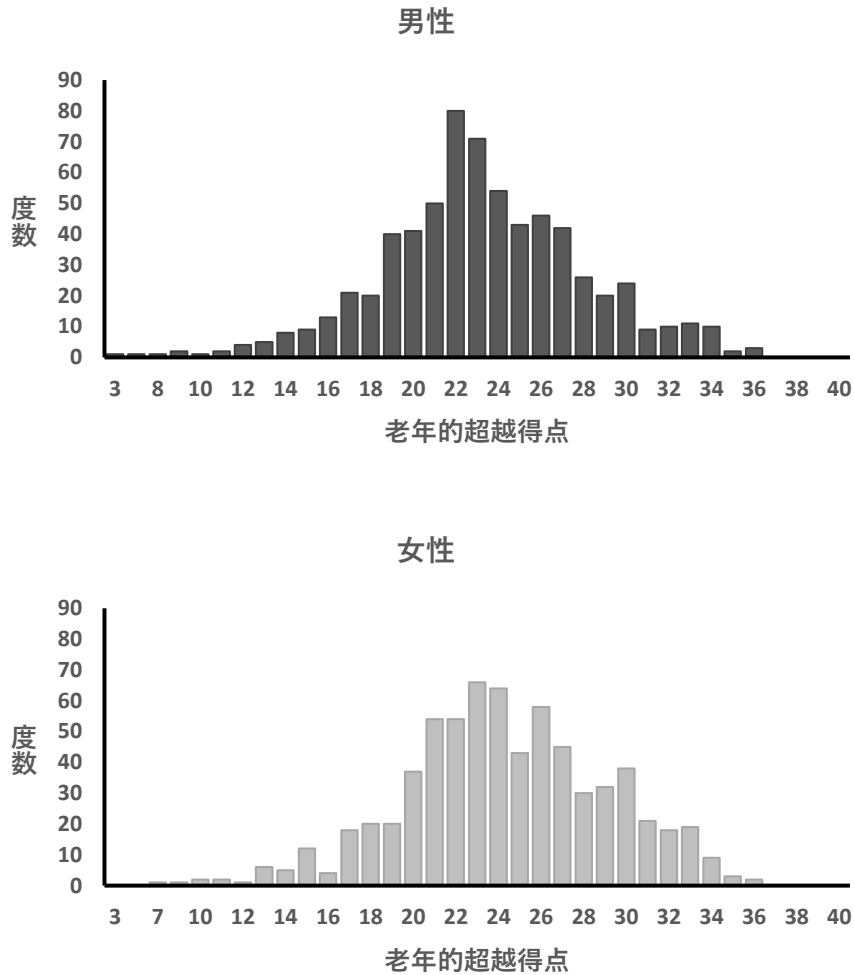


図 4-3-1. 老年的超越短縮版合計点数の性別のヒストグラム (上段：男性、下段：女性)

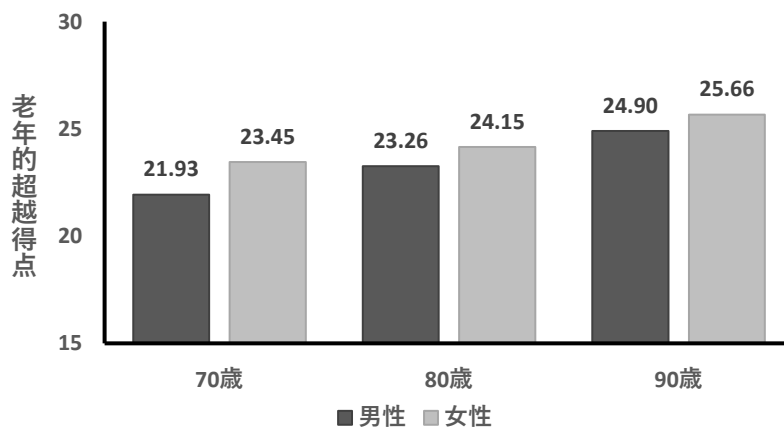


図 4-3-2. 性別×年齢群別の老年的超越の平均点

4-4. 要介護リスク（基本チェックリスト）

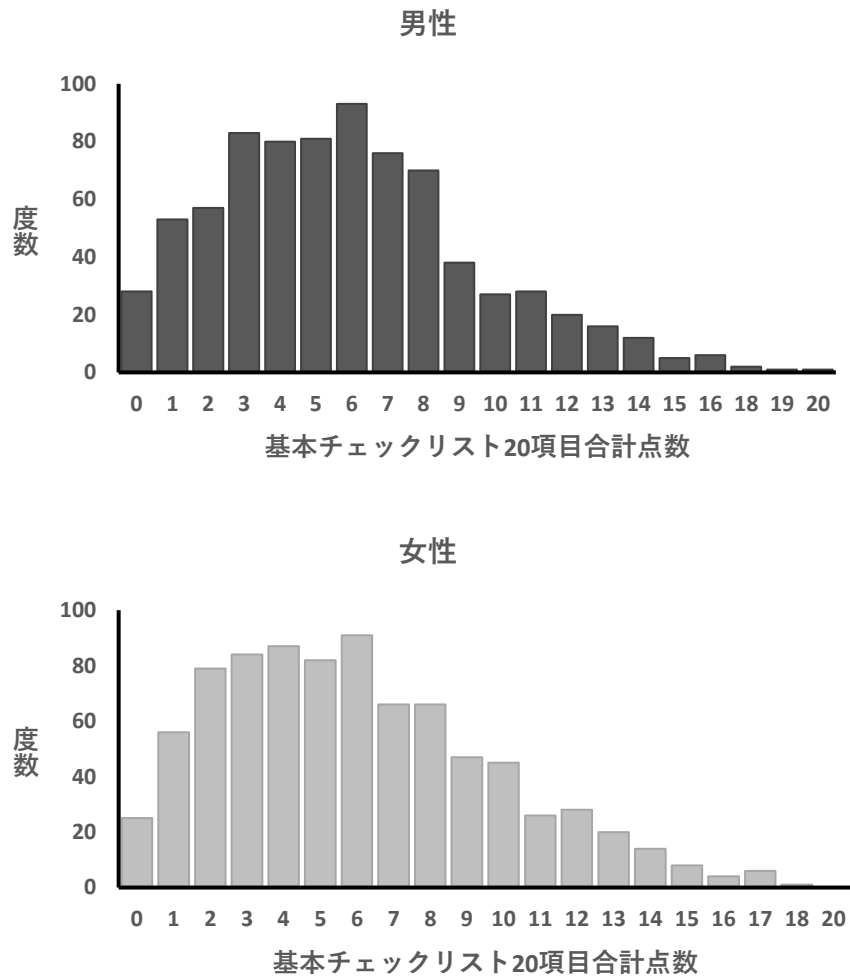


図4-4-1. 基本チェックリスト 20 項目合計点の分布（上段：男性、下段：女性）

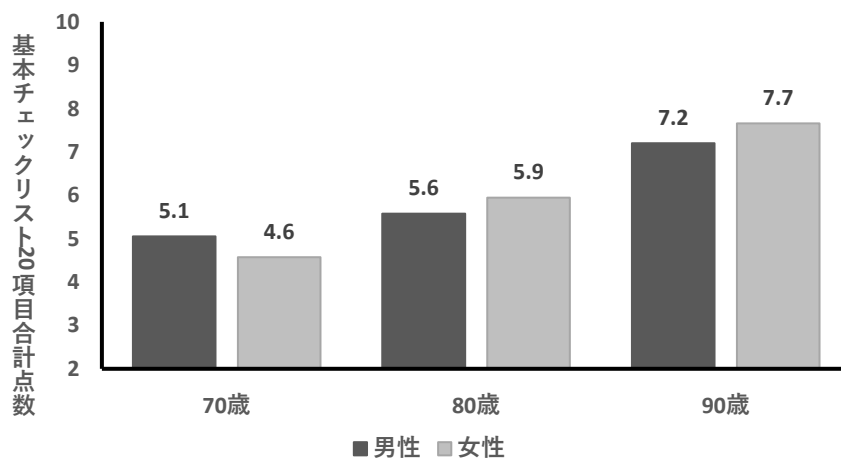


図4-4-2. 性別×年齢群別の基本チェックリスト 20 項目合計点の平均値

要介護リスクである基本チェックリストのうつ領域を除く 20 項目の性別の分布を図4-4-1に示した。図4-4-2に性別×年齢群別の基本チェックリスト 20 項目合計点の平均値を示した。2 要因の分析の結果、年齢群の主効果 ($F(2, 1606)=69.58$ $p<.001$) の主効果が有意であり、性別×年齢群の交互作用 ($F(2, 1606)=2.57$ $p<.10$) が有意傾向であった。要介護リスクは年齢が高い程高くなり、80 歳群、90 歳群で

は男性よりも女性で有意に悪いが、逆に70歳群では女性の方が要介護リスクが低いことが示された。

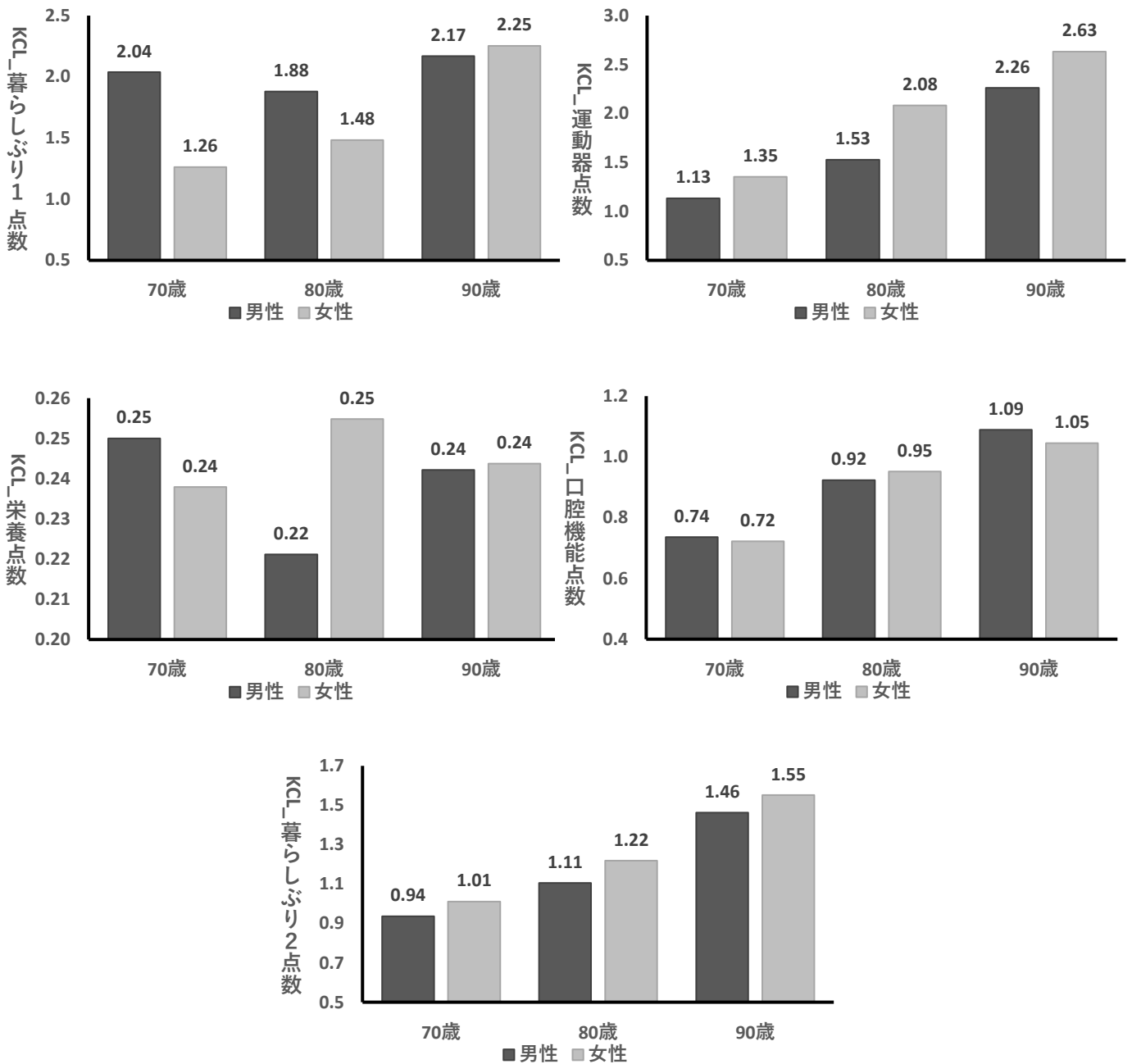


図4-4-3. 年齢群×性別の6群での基本チェックリストの下位尺度平均点（性別を調整）

上段左：暮らしぶり1、上段右：運動器、
中段左：栄養、中段右：口腔機能、下段：暮らしぶり2

図4-4-3は、基本チェックリスト各下位尺度の平均点を性別×年齢群別に示したものである。2要因の分析の結果、「栄養」以外の4つの下位尺度において年齢の主効果が有意であり、高い年齢群ほど要介護リスクが有意に高いことが示された。また、「運動器」では性別の主効果が有意であり、女性は男性よりも運動器の要介護リスクが高かった。また、「暮らしぶり1」は年齢群と性別の交互作用が有意であり、70歳群と80歳群では女性よりも男性の方が「暮らしぶり1」の要介護リスクが有意に高かった。「栄養」においては有意な主効果、交互作用はなかった。

4-5. 日中の過ごし方

表4-5-1に、8つの日中の過ごし方、それぞれについて「している（はい）」という回答した者の数とその割合を性別に示した。また一番右の欄には、その割合について有意な男女差があったかを示した。

表4-5-1. 男女別の日中の過ごし方の割合

	男性(N=779)		女性(N=840)		合計(N=1619)		男女別の 有意差
	N	%	N	%	N	%	
収入のある仕事についている	205	26.3%	121	14.4%	326	20.1%	男性>女性
ボランティアをしている	104	13.4%	60	7.1%	164	10.1%	男性>女性
田畑の仕事をしている	272	34.9%	214	25.5%	486	30.0%	男性>女性
家事をしている	387	49.7%	709	84.4%	1096	67.7%	女性>男性
家族の介護をしている	54	6.9%	74	8.8%	128	7.9%	
孫の世話をしている	73	9.4%	103	12.3%	176	10.9%	女性<男性
運動をしている	506	65.0%	479	57.0%	985	60.8%	男性>女性
学習・教養をしている	209	26.8%	232	27.6%	441	27.2%	
その他	9	1.2%	8	1.0%	17	1.1%	

分析の結果、「収入のある仕事」、「ボランティア」、「田畑の仕事」、「運動」については、男性は女性よりも「している」という回答が有意に多かった。また、「家事」については女性の方が有意に多かった。全体の平均値が30%以上行っていた過ごし方は、「田畑の仕事」（男性34.9%、女性25.5%）、「家事」（男性49.7%、女性84.4%）、「運動」（男性65.0%、女性57.0%）であった。

表4-5-2. 年齢群別の日中の過ごし方の割合

	70歳(N=511)		80歳(N=632)		90歳(N=476)		合計(N=1619)		年齢の有意差
	N	%	N	%	N	%	N	%	
収入のある仕事についている	203	39.7%	79	12.5%	44	9.2%	326	20.1%	70歳>80歳、90歳
ボランティアをしている	68	13.3%	67	10.6%	29	6.1%	164	10.1%	70歳>90歳
田畑の仕事をしている	127	24.9%	201	31.8%	158	33.2%	486	30.0%	90歳>70歳
家事をしている	386	75.5%	430	68.0%	280	58.8%	1096	67.7%	70歳>90歳
家族の介護をしている	46	9.0%	51	8.1%	31	6.5%	128	7.9%	
孫の世話をしている	104	20.4%	42	6.6%	30	6.3%	176	10.9%	70歳>80歳、90歳
運動をしている	320	62.6%	396	62.7%	269	56.5%	985	60.8%	
学習・教養をしている	131	25.6%	157	24.8%	153	32.1%	441	27.2%	90歳>70歳、80歳
その他	9	1.8%	12	1.9%	21	4.4%	42	2.6%	

表4-5-2は、年齢群別に、8つの日中の過ごし方の質問について「はい」と回答した割合と、年齢により回答に有意差があるかを示したものである。「収入のある仕事」、「ボランティア」、「家事」、「孫の世話」については、70歳群は80歳群や90歳群よりも有意に実施している人が多かった。一方で「学習・教養」については90歳群の方が有意に実施している人が多かった。その他の過ごし方についてはなく、「田畑の仕事」はどの群も約30%、「運動」は約60%、「学習・教養」は約25%の高齢者が行っていることが分かった。

次に、「運動をしている」人がどのような活動を行っているか、自由記述で回答していただいた。複数回答も可とした。得られた自由記述をその内容で分類した。分類された各活動を挙げている人の割合を、表4-

5-3では男女別に、表4-5-4では年齢別に示した。「散歩・ウォーキング」と回答した人が最も多く、全体で約30%の人が実施しており、男女差や年齢差も少なかった。

表4-5-3. 「運動をしている」と回答した者の具体的内容の性別出現頻度と割合（複数回答可）

	男性(N=779)		女性(N=840)		合計(N=1619)	
	N	%	N	%	N	%
散歩・ウォーキング等	280	35.9%	227	27.0%	507	31.3%
体操・ストレッチ	70	9.0%	127	15.1%	197	12.2%
グランドゴルフ・ゲートボール等	74	9.5%	38	4.5%	112	6.9%
スポーツジム等	18	2.3%	27	3.2%	45	2.8%
筋トレ等	14	1.8%	20	2.4%	34	2.1%
テニス・卓球等	20	2.6%	13	1.5%	33	2.0%
水泳・水中ウォーキング	9	1.2%	13	1.5%	22	1.4%
自転車・サイクリング	17	2.2%	3	0.4%	20	1.2%
ダンス・踊り	4	0.5%	13	1.5%	17	1.1%
球技・ボーリング	11	1.4%	6	0.7%	17	1.1%
ヨガ・太極拳	3	0.4%	14	1.7%	17	1.1%
ジョギング・ランニング	8	1.0%	5	0.6%	13	0.8%
その他のスポーツ	9	1.2%	15	1.8%	24	1.5%
不明(スポーツ・運動以外)	14	1.8%	22	2.6%	36	2.2%

表4-5-4. 年齢群別の「運動をしている」の内容の出現頻度と割合（複数回答可）

	70歳(N=511)		80歳(N=632)		90歳(N=476)		合計(N=1619)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
散歩・ウォーキング等	169	33.1%	213	33.7%	125	26.3%	507	31.3%
体操・ストレッチ	56	11.0%	77	12.2%	64	13.4%	197	12.2%
グランドゴルフ・ゲートボール等	20	3.9%	63	10.0%	29	6.1%	112	6.9%
スポーツジム等	25	4.9%	15	2.4%	5	1.1%	45	2.8%
筋トレ等	13	2.5%	14	2.2%	7	1.5%	34	2.1%
テニス・卓球等	17	3.3%	15	2.4%	1	0.2%	33	2.0%
水泳・水中ウォーキング	10	2.0%	9	1.4%	3	0.6%	22	1.4%
自転車・サイクリング	8	1.6%	8	1.3%	4	0.8%	20	1.2%
ダンス・踊り	6	1.2%	7	1.1%	4	0.8%	17	1.1%
球技・ボーリング	7	1.4%	9	1.4%	1	0.2%	17	1.1%
ヨガ・太極拳	13	2.5%	2	0.3%	2	0.4%	17	1.1%
ジョギング・ランニング	7	1.4%	5	0.8%	1	0.2%	13	0.8%
その他のスポーツ	9	1.8%	10	1.6%	5	1.1%	24	1.5%
不明(スポーツ・運動以外)	8	1.6%	14	2.2%	14	2.9%	36	2.2%

表4-5-5. 性別の「学習・教養をしている」の内容の出現頻度と割合（複数回答可）

	男性(N=779)		女性(N=840)		合計(N=1619)	
	N	%	N	%	N	%
新聞・読書	79	10.1%	68	8.1%	147	9.1%
芸術・手工芸	16	2.1%	48	5.7%	64	4.0%
学習（語学・歴史等）	35	4.5%	25	3.0%	60	3.7%
楽器・歌	18	2.3%	34	4.0%	52	3.2%
パソコン・スマホ （インターネット等）	22	2.8%	12	1.4%	34	2.1%
講習会・学習会等	20	2.6%	13	1.5%	33	2.0%
趣味（茶道・生け花等）	7	0.9%	22	2.6%	29	1.8%
書道・習字	7	0.9%	16	1.9%	23	1.4%
パズル・クイズ	8	1.0%	15	1.8%	23	1.4%
ゲーム・将棋等	11	1.4%	4	0.5%	15	0.9%
脳トレ	3	0.4%	10	1.2%	13	0.8%
テレビ・ラジオ	8	1.0%	4	0.5%	12	0.7%
書き物	8	1.0%	3	0.4%	11	0.7%
その他の学習	10	1.3%	8	1.0%	18	1.1%
不明（学習以外）	8	1.0%	5	0.6%	13	0.8%

表4-5-6. 年齢群別の「学習・教養をしている」の内容の出現頻度と割合（複数回答可）

	70歳(N=511)		80歳(N=632)		90歳(N=476)		合計(N=1619)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
新聞・読書	31	6.1%	49	7.8%	67	14.1%	147	9.1%
芸術・手工芸	19	3.7%	29	4.6%	16	3.4%	64	4.0%
学習（語学・歴史等）	27	5.3%	18	2.8%	15	3.2%	60	3.7%
楽器・歌	19	3.7%	23	3.6%	10	2.1%	52	3.2%
パソコン・スマホ （インターネット等）	13	2.5%	13	2.1%	8	1.7%	34	2.1%
講習会・学習会等	9	1.8%	17	2.7%	7	1.5%	33	2.0%
趣味（茶道・生け花等）	6	1.2%	11	1.7%	12	2.5%	29	1.8%
書道・習字	4	0.8%	9	1.4%	10	2.1%	23	1.4%
パズル・クイズ	5	1.0%	8	1.3%	10	2.1%	23	1.4%
ゲーム・将棋等	4	0.8%	7	1.1%	4	0.8%	15	0.9%
脳トレ	3	0.6%	3	0.5%	7	1.5%	13	0.8%
テレビ・ラジオ	1	0.2%	2	0.3%	9	1.9%	12	0.7%
書き物	5	1.0%	5	0.8%	1	0.2%	11	0.7%
その他の学習	7	1.4%	7	1.1%	3	0.6%	17	1.1%
不明（学習以外）	5	1.0%	7	1.1%	1	0.2%	13	0.8%

次に、「学習・教養をしている」人がどのような活動を行っているか、自由記述で回答していただいた。複数回答も可とした。得られた自由記述をその内容で分類した。分類された各活動を挙げている人の割合を、表4-5-5では男女別に、表4-5-6では年齢別に示した。「新聞を読む・読書」と回答した人が最も多

かったが、自由記述でこれを上げていた人は全体で 8.7%であり、多様な学習・教養活動を行っていることがわかった。

4-6. 経済状況

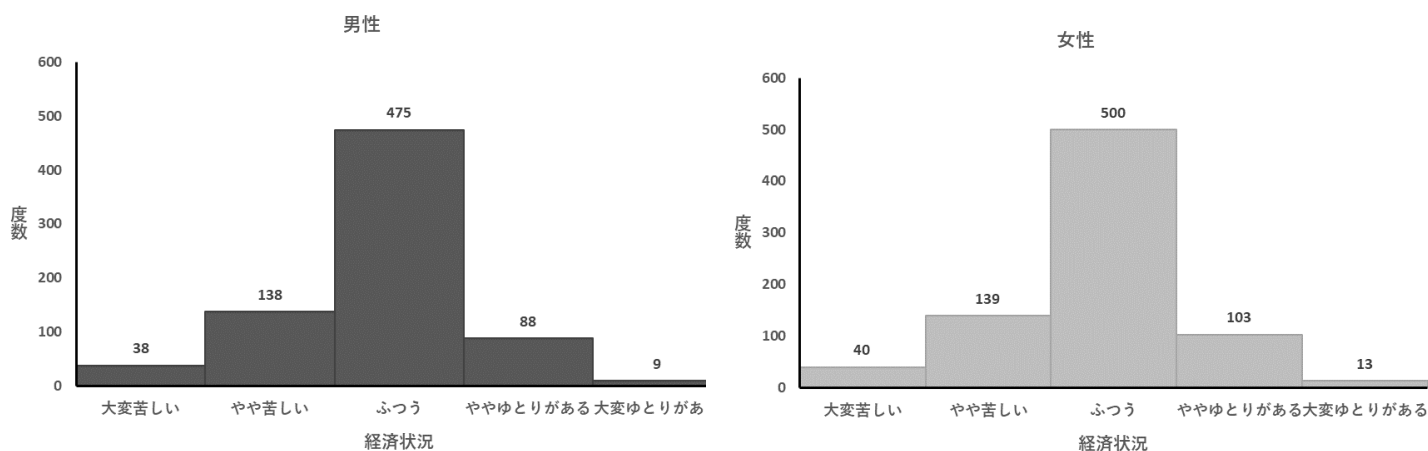


図4-6-1. 経済状況の男女別のヒストグラム（左図：男性、右図：女性）

参加者の経済状況について、図4-6-1に男女別に得点の分布を示した。男女とも「ふつう」という評価が60%を超えていた。また、「大変苦しい」、「苦しい」と合わせた頻度は男性で23.5%、女性で22.5%であり、「ゆとりがある」、「大変ゆとりがある」を合わせた割合（男性13.0%、女性14.6%）よりも多く、経済状況については「苦しい」と評価している人の方が多かった。

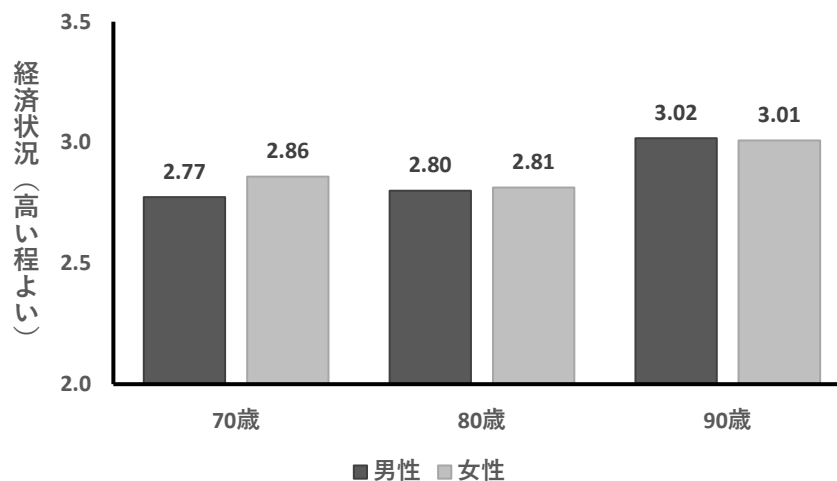


図4-6-2. 性別×年齢群別の経済状況の平均値

図4-6-2に性別×年齢群別の経済状況の平均値を示した。性別×年齢群の2要因の分散分析の結果、年齢群の主効果 ($F(2, 1573)=12.21$ $p<.001$) が有意であり、90歳群は70歳群や80歳群よりも経済状況がよいと評価していることが有意に示された。

5. 新規調査における幸福感に関連する要因

ここまで、新規調査における個々の変数の分布や、年齢および性別での平均値について検討してきた。次に、これらの変数が幸福感の指標（WH05-J）の高さと関連しているかを検討した。想定される要因としては、①参加者自身の変えられない属性（性別）、②初回調査時の参加者の状態（要介護リスク、老年人的超越）、③その他の状況変数（経済状況、日中の活動の状況）の3種類を想定した。更に、『高齢期の幸福度調査』においては、高齢者を一括りにせず、前期高齢者（70歳群）、後期高齢者（80歳群）、超高齢者（90歳群）のそれぞれにおいて、幸福感に関連する要因が異なるかを検討した。

分析方法は重回帰分析を用いた。目的変数に追跡調査時の幸福感（WH05-J）説明変数として表5-1-1に示した変数を用いた。目的変数の投入は一括とした。

本分析の対象者となったのは、以上の変数を全て回答している新規調査の参加者であった。人数は全体で1,201人（参加者1,619人中分析対象となった割合は74.2%）であった。また、対象者全体に加え、70歳群（421人）、80歳群（462人）、90歳群（318人）のそれぞれの集団で上記の分析を実施した。

表5-1-1は、上記の重回帰分析における、幸福感（WH05-J）の得点の高さに対する各変数の影響力ともいえる標準偏回帰係数（ β ）を全体および年齢別に示したものである。標準偏回帰係数は+1から-1までの値を取り、絶対値が大きい程、影響力が強い。

表5-1-1 新規調査における幸福感（WH05-J）の変化に対する各変数の影響力（ β ）

変数名	対象者 ¹⁾	全体	70歳群	80歳群	90歳群
		(N=1201)	(N=421)	(N=462)	(N=318)
		β	β	β	β
性別（男性=1、女性=2）		.021	-.098 *	-.015	.153 **
老年人的超越		.317 **	.290 **	.307 **	.316 **
KCL暮らしぶり1 ²⁾		-.118 **	-.180 **	-.126 **	-.065
KCL運動器 ²⁾		-.097 **	-.129 **	-.051	-.096
KCL栄養 ²⁾		-.048 *	-.075 *	-.016	-.056
KCL口腔 ²⁾		-.148 **	-.169 **	-.105 **	-.149 **
KCL暮らしぶり2 ²⁾		-.091 **	-.092 *	-.148 **	-.029
経済状況		.152 **	.176 **	.183 **	.085 +
日中の活動・有償労働 ³⁾		.039	.043	.039	-.022
日中の活動・ボランティア ³⁾		.032	.009	.046	.033
日中の活動・田畑仕事 ³⁾		.045 *	.022	.007	.133 *
日中の活動・家事 ³⁾		-.051 +	.054	-.050	-.112 *
日中の活動・介護 ³⁾		-.056 *	-.151 **	.002	.002
日中の活動・孫の世話 ³⁾		.013	-.019	.036	.029
日中の活動・運動 ³⁾		.078 **	.005	.122 **	.110 *
日中の活動・学習・教養 ³⁾		.112 **	.071 +	.130 **	.158 **
R²		.402 **	.424 **	.450 **	.415 **
調整済みR²		.394 **	.401 **	.431 **	.384 **
F値		49.74	18.60	22.80	13.36

1:全体および年齢群ごとに重回帰分析を実施

2: KCL⇒基本チェックリスト 3: していない=0、している=1

3:群間の有意差の水準 ** : p<.01 * : p<.05 +:p<.1

分析の結果、全般的には幸福感に対して老年的超越と経済状況はプラスの影響を持ち、要介護リスクはマイナスの影響を持つこと、日中の活動については「運動」と「学習・教養」はプラスの影響を持つことが示された。一方で、今回の新規調査では年齢群の違いも大きかった。

性別については、70歳群では男性の方が幸福感が高いのに対して、90歳群では逆に女性の方が幸福感が高くなった。要介護リスクについては、70歳群では下位尺度5つすべてが幸福感にマイナスの影響を与えていたが、80歳群では「暮らしぶり1」、「暮らしぶり2」、「口腔機能」がマイナスの影響を与え、90歳群では「口腔機能」のみマイナスの影響を与えていた。

日中の活動については、70歳群では「介護」が幸福感にマイナスの影響を与えていたが他の年齢群では有意な影響はなかった。一方、「運動」および「学習・教養」のプラスの影響が見られなかった。「田畑の仕事」のプラスの影響は90歳群のみに見られ、「家事」のマイナスの影響も見られた。

6. 第1期調査と第2期調査の比較

さて、これまで令和元年度から令和3年度において実施された『高齢期の幸福度調査 第2期調査』の新規調査について報告を行ってきた。次に平成28年度から平成30年度に同様の方法で実施された『高齢期の幸福度調査 第1期調査』と同一の指標を比較し、この3年間における同一年齢の自立高齢者に異なる様相がみられるかを検討する。

6-1. 分析対象者の人数、属性

本章の分析では、第1期、第2期とも自立高齢者のみのデータを用いた。調査期ごとの性別、年齢を表6-1-1と表6-1-2に示した。

表6-1-1 調査期別の男女の人数と割合

調査期		性別		合計
		男性	女性	
第1期 (H28~H30)	人数	605	777	1382
	割合	43.8%	56.2%	100.0%
第2期 (R1~R3)	人数	770	832	1602
	割合	48.1%	51.9%	100.0%
合計	度数	1375	1609	2984
	割合	46.1%	53.9%	100.0%

表6-1-2 調査期別の年齢群の人数と割合

調査期		新規（初回）調査時の年齢			合計
		70歳	80歳	90歳	
第1期 (H28~H30)	人数	812	469	101	1382
	割合	58.8%	33.9%	7.3%	100.0%
第2期 (R1~R3)	人数	511	632	459	1602
	割合	31.9%	39.5%	28.7%	100.0%
合計	度数	1323	1101	560	2984
	割合	44.3%	36.9%	18.8%	100.0%

まず、第1期と第2期では、男女比および各年齢群の比率が異なっていた。第1期調査は第2期調査よりも有意に女性が多く、その期の参加者に占める70歳群の割合が有意に多く、90歳群の割合が有意に少なかった。

6-2. 主要変数における調査期による平均値の相違について

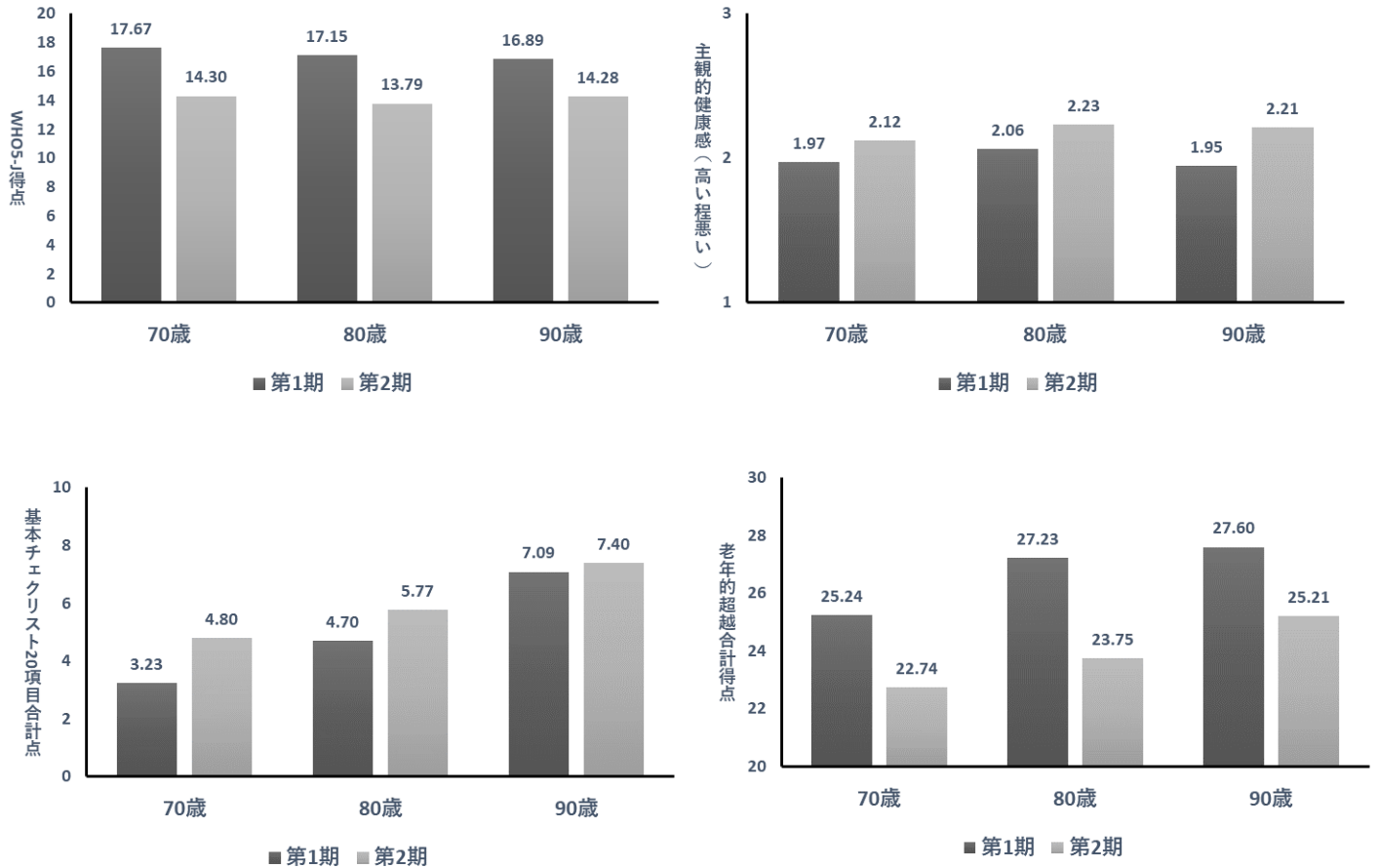


図6-2-1. 年齢群×調査期別の主要変数の平均値（性別を調整）
 上段左：幸福感（WH05-J）、上段右：主観的健康感、
 下段左：要介護リスク（基本チェックリスト）、下段右：老年的超越

4つの指標ごとに、性別を調整し年齢群×調査期別の2要因での分散分析を行った。その結果、4つの指標全てにおいて調査期の主効果が有意であり、どの指標についても第1期よりも第2期の方が指標の値が悪化していることが示された。また、その傾向はどの年齢群においても確認された。

令和3年度の追跡調査報告書においても、追跡調査参加者が初回調査よりも主要指標が低下していることが示されたが、追跡調査参加者のみならず、この新規調査での参加者においても、主要指標の低下がみられることは、第1期から第2期の3年間で亀岡市在住の自立高齢者の心身の健康全般にわたる悪化が生じている可能性がある。

しかしながら、追跡調査報告書でも述べたように、第1期の調査においてはすべての対象者が対面での調査を実施しているが、第2期の調査では令和元年度以外は郵送調査で実施しており、そのような調査方法の違いが評価指標全般に影響している（例えば、対面だと自分を良い方向に見せたがる傾向が生まれやすい）可能性もあり、更なる検討が必要であろう。

6-3. 他地域（SONIC 研究）における地域在住高齢者調査との比較

そこで、『高齢期の幸福度調査』と類似の方法や調査デザインを用いている、大阪大学および東京都健康長寿医療センター研究所などが共同実施している SONIC 研究のデータと比較することとした。

図6-3-1は、2019年度（令和元年度）および2020年度（令和2年度）の8月と1月に、79歳高齢者（2020年度には80歳）の幸福感の3回の調査における縦断変化（同一被験者のデータ）を示したものである。この SONIC 調査においても2020年度の調査は新型コロナウイルス感染症の流行のために、通常の見面調査から郵送調査に切り替えたという経緯も同様である。

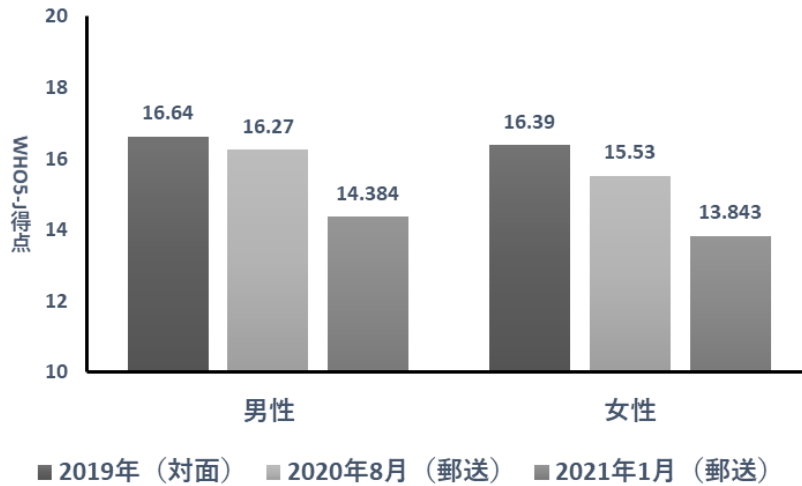


図6-3-1 SONIC 研究における79歳高齢者の幸福感（WHO5-J）の変化

上記の図からわかるように、SONIC 研究においても対面調査である2019年度（令和元年度）の幸福感より、2020年度（令和2年度）8月期、2020年度1月期と時間が経つにつれて、幸福感が有意に低下した。このことから、亀岡市以外（SONICの参加者は東京都板橋区、東京都西多摩郡、兵庫県伊丹市、兵庫県朝来市の高齢者が参加している）のほぼ同年齢の高齢者においても同様の現象が生じていた可能性がある。また、SONIC 研究において2021年1月の郵送調査がもっとも幸福感が悪化していることを考慮すると、単に調査方法の違いのみならず新型コロナウイルス感染症などの流行による影響がこれらの結果に影響している可能性も十分あるだろう。

7. 新規調査のまとめ

本報告書では、『高齢期の幸福度調査』の第2期調査の初回調査について報告を行った。70歳以上の高齢者2,122人に対して令和元年度から令和3年度にわたって訪問調査(令和元年度)および郵送調査(令和2年度、3年度)を実施し、自立高齢者1,602人、要支援高齢者17人、計1,619人の参加を得た。本調査は、『高齢期の幸福度調査』の第1期調査で抽出された対象者と、調査時の年齢は同じであるが、世代的には3歳若い集団の調査となる。

①主要項目における調査期の違いについて

幸福感、主観的健康、要介護リスク、老年的超越という4つの指標全てにおいて第1期調査よりも第2期調査の指標の値が悪化していることが示された。また、その傾向はどの年齢群においても確認された。

今回、同時期に行われた平成28年度から平成30年度の第1期調査の追跡調査においても、初回調査よりも主要指標が低下していることが示された(追跡調査報告書を参照のこと)が、追跡調査参加者のみならず、この新規調査での参加者においても、主要指標の低下がみられることは、第1期から第2期の3年間で亀岡市在住の自立高齢者の心身の健康全般にわたる悪化が生じている可能性が考えられた。

また、同時期に同様の手法で行われた他地域での高齢者調査(SONIC研究)の結果の比較からは、SONIC研究でも同様の現象が生じていることが伺えた。これらの調査の比較からは、第1期調査から第2期調査の主要指標の低下は、単に調査方法の違いのみならず、新型コロナウイルス感染症などの流行により、身体的な健康(主観的健康感、要介護リスク)や日中の活動低下などの幸福感低下の要因の悪化や、その他、新型コロナウイルス感染症の流行やマスメディアの報道などにより、国民全体の不安が高まった可能性もあると考えられた。

②幸福感に影響する要因の年齢別の違いについて

『高齢期の幸福度調査』の第2期調査では、第1期調査よりも90歳群の調査参加者が多くなり、『高齢期の幸福度調査』が目的とする、今後の寿命の延伸により考慮すべき後期高齢者や超高齢者の幸福感の要因や前期高齢者との相違が更に明確になった。

年齢別の分析の結果、全般的には幸福感に対して老年的超越と経済状況はプラスの影響を持ち、要介護リスクはマイナスの影響を持つこと、日中の活動については「運動」と「学習・教養」はプラスの影響を持つことが示された。

一方で、70歳群では男性で幸福感が高いのに対して、90歳群では逆に女性で幸福感が高くなった。要介護リスクについては、70歳群では下位尺度5つすべてが幸福感にマイナスの影響を与えていたが、80歳群では「暮らしぶり1」、「暮らしぶり2」、「口腔機能」がマイナスの影響を与え、90歳群では「口腔機能」のみマイナスの影響を与えていた。つまり、年齢が高くなるほど、要介護リスクは幸福感には影響せず、身体が弱ってきてても幸福感は維持されることがわかった。

日中の活動については、70歳群では「介護」が幸福感にマイナスの影響を与えており、家族介護が幸福感にマイナスの影響を与えることが分かった。更に、今回の新規調査においては、「運動」や「学習・教養」といった活動のプラスの影響が小さいことが示された。反対に80歳、90歳では「運動」や「学習・教養」を行うことが幸福感にとって重要であることが示された。また、「田畑の仕事」のプラスの影響は90歳群のみに見られ、「家事」のマイナスの影響も見られ、超高齢者において家事が心身に負担をもたらすことも考えられた。

8. 資料：令和3年度追跡調査および新規調査における地域包括センターに関する質問、IT機器に関する質問、ボランティア活動に関する質問の集計表

8-1. 調査参加者の性別、年齢別の人数

表8-1-1 調査参加者の性別、年齢別の人数

調査種別		参加者の年齢			合計
		70歳	80歳	90歳	
R3年 新規調査	人数	280	321	100	701
	割合	39.9%	45.8%	14.3%	100.0%
R3年 追跡調査	人数	179	80	14	273
	割合	65.6%	29.3%	5.1%	100.0%
合計	度数	459	401	114	974
	割合	47.1%	41.2%	11.7%	100.0%

8-2. 地域包括支援センターの認知度について

表8-2-1. 問7地域包括支援センターの認知度に関する性別の度数分布

	男性(N=435)		女性(N=539)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%
利用したことがある	37	8.5%	66	12.2%	103	10.6%
利用したことはないが、名前や何をしているかは知っている	136	31.3%	168	31.2%	304	31.2%
名前だけは知っている	121	27.8%	178	33.0%	299	30.7%
知らなかった	114	26.2%	89	16.5%	203	20.8%

表8-2-2. 問7地域包括支援センターの認知度に関する年齢群別の度数分布

	70歳群(N=459)		80歳群(N=401)		90歳群(N=114)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
利用したことがある	40	8.7%	49	12.2%	14	12.3%	103	10.6%
利用したことはないが、名前や何をしているかは知っている	146	31.8%	122	30.4%	36	31.6%	304	31.2%
名前だけは知っている	148	32.2%	116	28.9%	35	30.7%	299	30.7%
知らなかった	102	22.2%	82	20.4%	19	16.7%	203	20.8%

8-3. IT機器に関する質問

表8-3-1. 問8 IT機器所有についての性別の度数分布（複数回答可）

	男性(N=435)		女性(N=539)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%
スマートフォン	244	56.1%	299	55.5%	543	55.7%
タブレット	61	14.0%	42	7.8%	103	10.6%
パソコン	197	45.3%	78	14.5%	275	28.2%
未所持	139	32.0%	226	41.9%	365	37.5%

表8-3-2. 問8 IT機器所有についての年齢群別の度数分布（複数回答可）

	70歳群(N=459)		80歳群(N=401)		90歳群(N=114)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
スマートフォン	345	75.2%	177	44.1%	21	18.4%	543	55.7%
タブレット	72	15.7%	26	6.5%	5	4.4%	103	10.6%
パソコン	183	39.9%	76	19.0%	16	14.0%	275	28.2%
未所持	86	18.7%	197	49.1%	82	71.9%	365	37.5%

表8-3-3. 問8 IT機器未所持の理由についての性別の度数分布（複数回答可）

	男性(N=435)		女性(N=539)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%
必要だと思わない	63	14.5%	100	18.6%	163	16.7%
使い方が分からない	53	12.2%	81	15.0%	134	13.8%
お金がかかる	27	6.2%	47	8.7%	74	7.6%
購入方法がわからない	4	0.9%	7	1.3%	11	1.1%
その他	5	1.1%	20	3.7%	25	2.6%

表8-3-4. 問8 IT機器未所持の理由についての年齢群別の度数分布（複数回答可）

	70歳群(N=459)		80歳群(N=401)		90歳群(N=114)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
必要だと思わない	32	7.0%	89	22.2%	42	36.8%	163	16.7%
使い方が分からない	26	5.7%	80	20.0%	28	24.6%	134	13.8%
お金がかかる	19	4.1%	45	11.2%	10	8.8%	74	7.6%
購入方法がわからない	3	0.7%	5	1.2%	3	2.6%	11	1.1%
その他	6	1.3%	17	4.2%	2	1.8%	25	2.6%

表8-3-5. 問8 IT機器未所持の理由その他の性別の度数分布（複数回答可）

	男性(N=5)		女性(N=20)		合計(N=25)	
	N	%	N	%	N	%
携帯電話（ガラケー）を使用	1	20.0%	10	50.0%	11	44.0%
目や耳などに負担	0	0.0%	4	20.0%	4	16.0%
家族がIT機器を持っている	0	0.0%	3	15.0%	3	12.0%
使いこなせない	1	20.0%	1	5.0%	2	8.0%
不自由がない・興味がない	0	0.0%	2	10.0%	2	8.0%
プライバシーの問題	0	0.0%	1	5.0%	1	4.0%
重い	1	20.0%	0	0.0%	1	4.0%
電波が入らない	0	0.0%	1	5.0%	1	4.0%
贅沢できない	0	0.0%	1	5.0%	1	4.0%
あえて使わない	1	20.0%	0	0.0%	1	4.0%
記述が不明	0	0.0%	1	5.0%	1	4.0%

8-4. ボランティア活動に関する質問

表8-4-1. 問9 ボランティア参加についての性別の度数分布

	男性(N=435)		女性(N=539)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%
参加したことがある	96	22.1%	78	14.5%	174	17.9%
興味をもったことはあるが 参加したことはない	187	43.0%	231	42.9%	418	42.9%
興味を持ったことがない	95	21.8%	131	24.3%	226	23.2%
その他	7	1.6%	10	1.9%	17	1.7%

表8-4-2. 問9 ボランティア参加についての年齢群別の度数分布

	70歳群(N=459)		80歳群(N=401)		90歳群(N=114)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
参加したことがある	98	21.4%	62	15.5%	14	12.3%	174	16.1%
興味をもったことはあるが 参加したことはない	191	41.6%	187	46.6%	40	35.1%	418	42.9%
興味を持ったことがない	115	25.1%	83	20.7%	28	24.6%	226	23.2%
その他	7	1.5%	6	1.5%	4	3.5%	17	3.5%

表8-4-3. 問9 ボランティア参加の内容についての性別の度数分布（複数回答可）

	男性(N=96)		女性(N=78)		合計(N=174)	
	N	%	N	%	N	%
清掃、草取り、ゴミ拾い、花の世話等	42	43.8%	25	32.1%	67	38.5%
自治会、老人会、社協、組合、 民生委員等	25	26.0%	4	5.1%	29	16.7%
シルバー人材、サークル、NPO等	13	13.5%	7	9.0%	20	11.5%
防災・防犯活動、災害支援	14	14.6%	5	6.4%	19	10.9%
障害者の世話、更生施設等	2	2.1%	8	10.3%	10	5.7%
傾聴、読み聞かせ、いのちの電話等	1	1.0%	8	10.3%	9	5.2%
コーラス、ダンス等	1	1.0%	8	10.3%	9	5.2%
その他（聖書教育、イベント手伝い等）	17	17.7%	17	21.8%	34	19.5%
不明	3	3.1%	5	6.4%	8	4.6%

表8-4-4. 問9 ボランティア参加の内容についての年齢群別の度数分布（複数回答可）

	70歳群(N=98)		80歳群(N=62)		90歳群(N=14)		合計(N=174)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
清掃、草取り、ゴミ拾い、花の世話等	36	36.7%	26	41.9%	5	35.7%	67	42.7%
自治会、老人会、社協、組合、 民生委員等	14	14.3%	13	21.0%	2	14.3%	29	18.5%
シルバー人材、サークル、NPO等	12	12.2%	6	9.7%	2	14.3%	20	12.7%
防災・防犯活動、災害支援	9	9.2%	8	12.9%	2	14.3%	19	12.1%
障害者の世話、更生施設等	6	6.1%	4	6.5%	0	0.0%	10	6.4%
傾聴、読み聞かせ、いのちの電話等	4	4.1%	4	6.5%	1	7.1%	9	5.7%
コーラス、ダンス等	5	5.1%	4	6.5%	0	0.0%	9	5.7%
その他（聖書教育、イベント手伝い等）	21	21.4%	12	19.4%	1	7.1%	34	21.7%
不明	4	4.1%	3	4.8%	1	7.1%	8	5.1%

表8-4-5. 問10 ボランティア参加の興味についての性別の度数分布

	男性(N=435)		女性(N=539)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%
現在、参加しているボランティア活動をこれからも続けていきたい	65	14.9%	49	9.1%	114	11.7%
ボランティア活動に興味があり、これから参加してみたい	21	4.8%	17	3.2%	38	3.9%
ボランティア活動に興味はあるが、今のところは参加するつもりはない	110	25.3%	117	21.7%	227	23.3%
これからボランティア活動に参加するつもりは、まったくない	164	37.7%	230	42.7%	394	40.5%
その他	17	3.9%	35	6.5%	52	5.3%

表8-4-6. 問10 ボランティア参加の興味についての年齢群別の度数分布

	70歳群(N=459)		80歳群(N=401)		90歳群(N=114)		合計(N=974)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
現在、参加しているボランティア活動をこれからも続けていきたい	66	14.4%	44	11.0%	4	3.5%	114	11.7%
ボランティア活動に興味があり、これから参加してみたい	27	5.9%	8	2.0%	3	2.6%	38	3.9%
ボランティア活動に興味はあるが、今のところは参加するつもりはない	132	28.8%	87	21.7%	8	7.0%	227	23.3%
これからボランティア活動に参加するつもりは、まったくない	162	35.3%	173	43.1%	59	51.8%	394	40.5%
その他	20	4.4%	17	4.2%	15	13.2%	52	5.3%

表8-4-7. 問10 ボランティア参加の興味について2または3に回答した理由の性別の度数分布（複数回答可）

	男性(N=131)		女性(N=134)		合計(N=265)	
	N	%	N	%	N	%
一緒にボランティア活動に参加する仲間がいること	42	32.1%	49	36.6%	91	34.3%
ボランティア活動についての情報が簡単に手に入ること	48	36.6%	42	31.3%	90	34.0%
ボランティア活動に参加できる場所が増えること	31	23.7%	31	23.1%	62	23.4%
ボランティア活動の種類が増えること	34	26.0%	28	20.9%	62	23.4%
ボランティア活動の参加者に特典（買い物などに使えるポイントなど）があること	12	9.2%	10	7.5%	22	8.3%
その他	29	22.1%	32	23.9%	61	23.0%

表8-4-8. 問10 ボランティア参加の興味について2または3に回答した理由の年齢群別の度数分布（複数回答可）

	70歳群(N=159)		80歳群(N=95)		90歳群(N=11)		合計(N=265)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
一緒にボランティア活動に参加する仲間がいること	58	36.5%	29	30.5%	4	36.4%	91	34.3%
ボランティア活動についての情報が簡単に手に入ること	57	35.8%	30	31.6%	3	27.3%	90	34.0%
ボランティア活動に参加できる場所が増えること	36	22.6%	24	25.3%	2	18.2%	62	23.4%
ボランティア活動の種類が増えること	46	28.9%	15	15.8%	1	9.1%	62	23.4%
ボランティア活動の参加者に特典（買い物などに使えるポイントなど）があること	15	9.4%	7	7.4%	0	0.0%	22	8.3%
その他	36	22.6%	22	23.2%	3	27.3%	61	23.0%

表8-4-9. 問10 ボランティア参加の興味について2または3に回答した
その他の理由の性別の度数分布（複数回答可）

	男性(N=29)		女性(N=32)		合計(N=61)	
	N	%	N	%	N	%
健康上の理由・体力がない	9	31.0%	14	43.8%	23	37.7%
仕事で忙しい	8	27.6%	4	12.5%	12	19.7%
時間がない・乗り物がない	3	10.3%	6	18.8%	9	14.8%
家族の世話・介護で忙しい	2	6.9%	6	18.8%	8	13.1%
高齢のため	4	13.8%	3	9.4%	7	11.5%
その他（自信がない、近くに活動場所がない等）	7	24.1%	7	21.9%	14	23.0%

表8-4-10. 問10 ボランティア参加の興味について2または3に回答した
その他の理由の年齢群別の度数分布（複数回答可）

	70歳群(N=36)		80歳群(N=22)		90歳群(N=3)		合計(N=61)	
	N	%	N	%	N	%	N	%
健康上の理由・体力がない	6	16.7%	16	72.7%	1	33.3%	23	37.7%
仕事で忙しい	9	25.0%	2	9.1%	1	33.3%	12	19.7%
時間がない・乗り物がない	5	13.9%	3	13.6%	1	33.3%	9	14.8%
家族の世話・介護で忙しい	6	16.7%	2	9.1%	0	0.0%	8	13.1%
高齢のため	0	0.0%	6	27.3%	1	33.3%	7	11.5%
その他（自信がない、近くに活動場所がない等）	10	27.8%	3	13.6%	1	33.3%	14	23.0%

9. 資料：令和3年度新規調査調査票

※集計ができなくなるため、
ID番号等は決して、切り取らないで
ください。
(集計・分析の際は、ご住所・ご氏名
等が特定できないようにしたうえ
で、作業いたします。)

高齢期の生活状況調査【令和3年度調査票】

亀岡市では皆様に幸せで健康的な高齢期を過ごしていただけるまちづくりを
考えるために高齢期の生活状況調査を行っています。

この調査票は、令和3年7月1日現在で、70歳・80歳・90歳前後の方に、
健康状態や生活状況をお尋ねするために送付させていただきました。

なお、ご回答いただきました内容は、本調査以外の目的には利用しません。
趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

この調査についてのお問い合わせは下記までお願いします。

亀岡市高齢福祉課 生活支援係 【電話】0771-25-5127(直通)

ご回答に際してのお願い

1. ご回答は、封筒のあて名ご本人についてお答えいただきますが、
ご家族の方等がご本人の立場にたって回答いただいてもかまいません。
2. ご回答にあたっては質問をよく読んでいただき、該当する番号または、
「はい・いいえ」を○で囲んでください。
3. 調査票ご記入後は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

11月19日（金）までに郵送してください。

個人情報 の 取 り 扱 い に つ い て

個人情報の保護および利用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。


なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものとさせていただきます。

【個人情報の保護および利用目的について】

この調査は、亀岡市の介護予防施策の立案と効果評価および高齢期の生活状況の把握のために行うものです。調査によって得た個人情報は、個人が特定されない形で分析し、それ以外の目的には絶対に利用しません。

★はじめに、以下のご記入をお願いします。

ご記入日	令和	年	月	日
------	----	---	---	---

ご記入者	1. あて名のご本人が記入 2. ご家族が記入（あて名のご本人からみた続柄 _____） 3. その他の人（具体的に： _____）
	2 または 3 の場合  あて名のご本人が回答できない主な理由は何ですか（1つに○） 1. 身体的状況 2. 施設入所・入院 3. 転居 4. その他（ _____ ）

◆訪問調査の内容について、問い合わせをすることにご了承いただけますか。
（どちらかに○）

1. はい（電話番号： _____）	2. いいえ
--------------------	--------

◆家族構成（1つだけ○）

- | |
|--------------|
| 1. 1人暮らし |
| 2. 夫婦2人暮らし |
| 3. 息子・娘との2世帯 |

4. その他

問1. あなたの現在の健康状態はいかがですか？（1つだけ○）

1. 非常に健康だ
2. まあ健康な方だと思う
3. あまり健康でない
4. 健康でない

問2. 以下の5つの項目について、最近2週間のあなたの状態に最も近いものに○をつけてください。（1つの質問につき、1つだけ○）

	まったく ない	ほんの たまに	半分以下 の期間を	半分以上 の期間を	ほとんど いつも	いつも
1. 明るく、楽しい気分で過ごした	1	2	3	4	5	6
2. 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	1	2	3	4	5	6
3. 意欲的で、活動的に過ごした	1	2	3	4	5	6
4. ぐっすりと休め、気持ちよくめざめた	1	2	3	4	5	6
5. 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	1	2	3	4	5	6

問3. 以下の質問を読んで、「はい」または「いいえ」に○をつけてください。
1 2 番 1 3 番の質問には数字をご記入ください。

1. バスや電車で1人で外出していますか	はい	いいえ
2. 日用品の買い物をしていますか	はい	いいえ
3. 預貯金の出し入れをしていますか	はい	いいえ
4. 友人の家を訪ねていますか	はい	いいえ
5. 家族や友人の相談にのっていますか	はい	いいえ

6. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	はい	いいえ
7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	はい	いいえ
8. 15分位続けて歩いていますか	はい	いいえ
9. この1年間に転んだことがありますか	はい	いいえ
10. 転倒に対する不安は大きいですか	はい	いいえ
11. 6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	はい	いいえ
12. 身長は何cmですか		cm
13. 体重は何kgですか		kg
14. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい	いいえ
15. お茶や汁物等でむせることがありますか	はい	いいえ
16. 口の渇きが気になりますか	はい	いいえ
17. 週に1回以上は外出していますか	はい	いいえ
18. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	はい	いいえ
19. 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると 言われますか	はい	いいえ
20. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	はい	いいえ
21. 今日が何月何日かわからない時がありますか	はい	いいえ

問4. 次の文章は、どれくらい自分に当てはまると思われますか。あてはまる回答の番号に○をつけてください。(1つの質問につき、1つだけ○)

	そうでない	どちらかといえ ば そうでない	どちらかといえ ば そうだ	そうだ
1. よいことがあると、他の人のおかげだと思	1	2	3	4

2.	周りの人の支えがあるからこそ、私は生きていける	1	2	3	4
3.	ひとりで静かに過ごす時間は大切だ	1	2	3	4
4.	もう死んでもいいという気持ちともう少し生きていきたいという気持ちが同居している	1	2	3	4
5.	ご先祖様との繋がりを強く感じる	1	2	3	4
6.	他の人のことを羨ましいと思うことがある	1	2	3	4
7.	自分の人生は意義のあるものだったと思う	1	2	3	4
8.	毎日が楽しい	1	2	3	4
9.	昔より思いやりが深くなったと思う	1	2	3	4
10.	人の気持ちがよくわかるようになった	1	2	3	4
11.	できないことがあっても、くよくよしない	1	2	3	4
12.	細かいことが気にならなくなった	1	2	3	4

問5. 日中の過ごし方について、以下の質問に「はい」または「いいえ」でお答えください。(1つの質問につき、1つだけ○)

1～8番に当てはまらない場合は、9. その他に、していることを書いてください。

1.	収入のある仕事をしている	はい	いいえ
2.	ボランティアをしている	はい	いいえ
3.	田畑をしている	はい	いいえ
4.	家事をしている	はい	いいえ
5.	家族の介護をしている	はい	いいえ
6.	孫の世話をしている	はい	いいえ

7	運動をしている（健康を保つためにからだを動かすこと）	はい	いいえ
↳	「はい」の場合、何をしていますか	（ ）	
8.	学習・教養活動をしている	はい	いいえ
↳	「はい」の場合、何をしていますか	（ ）	
9.	その他（ ）		

問6. 現在の暮らしを経済的にみてどう感じていますか？

あてはまるところに○をしてください。（1か所だけに○）

① 大変 苦しい	② やや 苦しい	③ ふつ う	④ やや ゆとり がある	⑤ 大変 ゆとり がある

問7. 亀岡市では、市内7か所に高齢者やその家族などを総合的に支援する窓口として、※「地域包括支援センター」を設置していますが、次の中から最も近いものに○をつけてください。（1つだけ○）

※ 地域包括支援センターについて

地域包括支援センターとは、高齢者の皆さんが住み慣れた地域で安心した生活が続けられるように、介護・福祉・保健・医療など、さまざまな面で支援を行うための総合相談機関です。

1. 利用したことがある
2. 利用したことはないが、名前や何をしているかは知っている
3. 名前だけは知っている
4. 知らなかった

問8. 次の中から、現在、お持ちのもの全てに○をつけてください。

1. スマートフォン
2. タブレット型端末
3. パソコン
4. どれも持っていない

4に○をつけた方に、お聞きします。
次の中から理由にあてはまるものすべてに○をつけてください。

- ① 必要だと思わないため。
- ② 使い方がわからないため。
- ③ お金がかかるため。
- ④ 購入方法がわからないため。
- ⑤ その他 ()

問9. この1年間で※「ボランティア活動」に興味を持ったり、実際に参加したりしたことはありますか。最も近いものに○をつけてください。(1つだけ○)

※ ボランティア活動について

ボランティア活動とは、社会のために無償で行う活動のことを指します。
(活動に必要な交通費及び食事代が支給されるものを含むこととします。)

1. ボランティア活動に参加したことがある。
2. ボランティア活動に興味をもったことはあるが、参加したことはない。
3. ボランティア活動に興味をもったことはない。
4. その他 ()

1に○をつけた方に、お聞きします。
どのような活動に参加されましたか。お書きください。

()

問 10. 今後、ボランティア活動に参加することに興味がありますか。
最も近いものに○をつけてください。(1つだけ○)

1. 現在、参加しているボランティア活動をこれからも続けていきたい。
2. ボランティア活動に興味があり、これから参加してみたい。
3. ボランティア活動に興味はあるが、今のところは参加するつもりはない。
4. これからボランティア活動に参加するつもりは、まったくない。
5. その他 ()

2または3に○をつけた方に、お聞きします。
どのような条件が満たされれば、ボランティア活動に参加しやすくなると思いますか。

次の中から、あてはまるものを2つまで選んで○をつけてください。

- ① 一緒にボランティア活動に参加する仲間がいること
- ② ボランティア活動についての情報が簡単に手に入ること
- ③ ボランティア活動に参加できる場所が増えること。
- ④ ボランティア活動の種類が増えること。
- ⑤ ボランティア活動の参加者に特典(買い物などに使えるポイントなど)があること
- ⑥ その他 ()

お疲れ様でした。これで調査は終了です。
ご協力ありがとうございました。